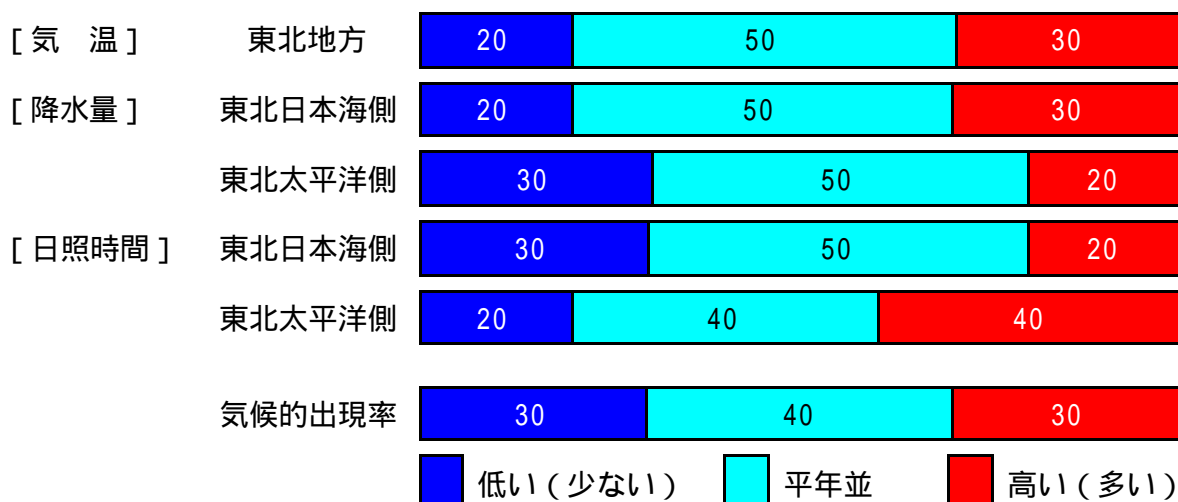


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：7 月 24 日～8 月 23 日）

平成 11 年 7 月 23 日 仙台管区气象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「高い」で 30％です。「低い」確率は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は日本海側では「多い」で 30％、「少ない」確率は 20％と小さい。太平洋側では「少ない」で 30％、「多い」可能性は 20％と小さい。

[日照時間]: 日本海側では「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で 30％です。太平洋側では「平年並」か「多い」の可能性が大きくその確率はそれぞれ 40％です。「少ない」確率は 20％と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方では、太平洋高気圧に覆われ平年同様晴れの日が多い見込みですが、日本海側を中心に前線や低気圧の影響を受け天気のごずつく時期があるでしょう。

平均気温は「平年並」でしょう。（平年の晴れ日数は約 16 日です。）

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 晴れる日もありますが、期間の初めは大気の状態が不安定なため、にわか（7 月 24 日～7 月 30 日）雨が雷雨となるところがあるでしょう。

平均気温は高い見込みです。

（平年の晴れ日数は約 4 日です。詳細は週間天気予報を参照して下さい。）

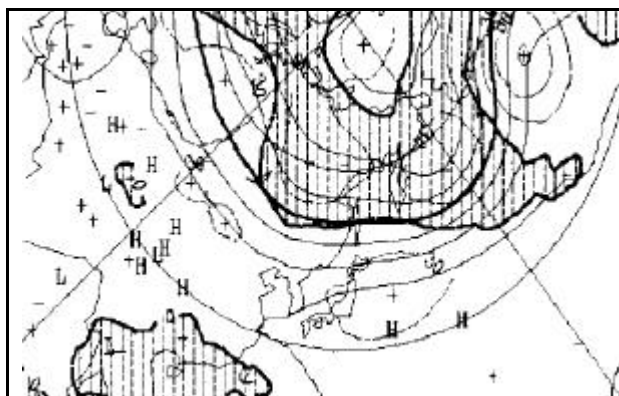
2 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ平年同様晴れの日が多いですが、日本海側を中心に（7 月 31 日～8 月 6 日）前線や低気圧の影響を受け天気のごずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。（平年の晴れ日数は約 4 日です。）

3～4 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ、平年同様晴れの日が多いですが、前線や低気圧の（8 月 7 日～8 月 20 日）影響を受け天気のごずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。（平年の晴れ日数は約 8 日です。）

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

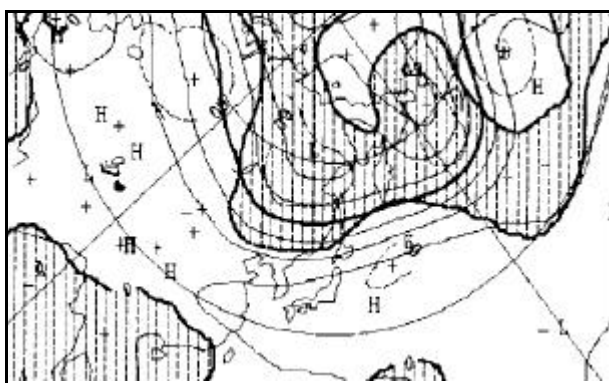


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)

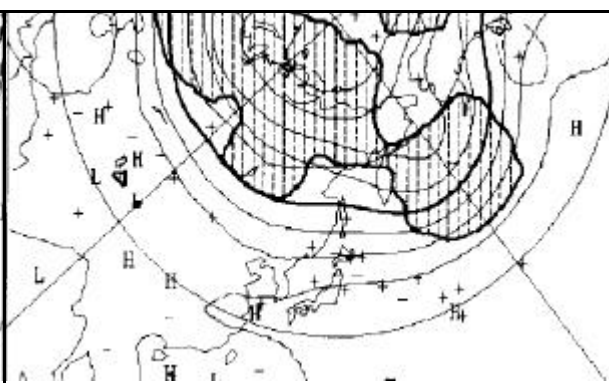
・ 500hPa 高度・偏差

月平均、2 週目、3～4 週目とも、日本付近は広く正偏差に覆われている。

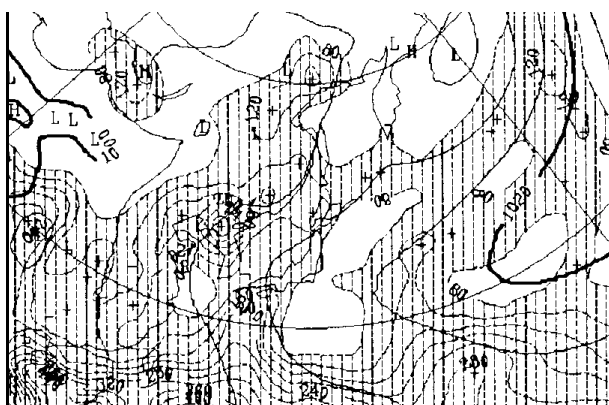
夏型の安定した晴天をもたらす太平洋高気圧は、月平均で見ると東北地方南部から中国大陆東岸に張り出す予想。3～4 週目に勢力はやや弱まるが、期間を通して東北南部を中心に太平洋高気圧の圏内に入る予想。2 週目に中国東北部に気圧の谷があり、北日本はやや西谷傾向となっている。このため、日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受ける可能性がある。



2 週目の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 毎、偏差: 60m 毎、陰影部: 負偏差)



3～4 週目の 500hPa 高度・偏差
(等高度: 60m 毎、偏差: 60m 毎、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

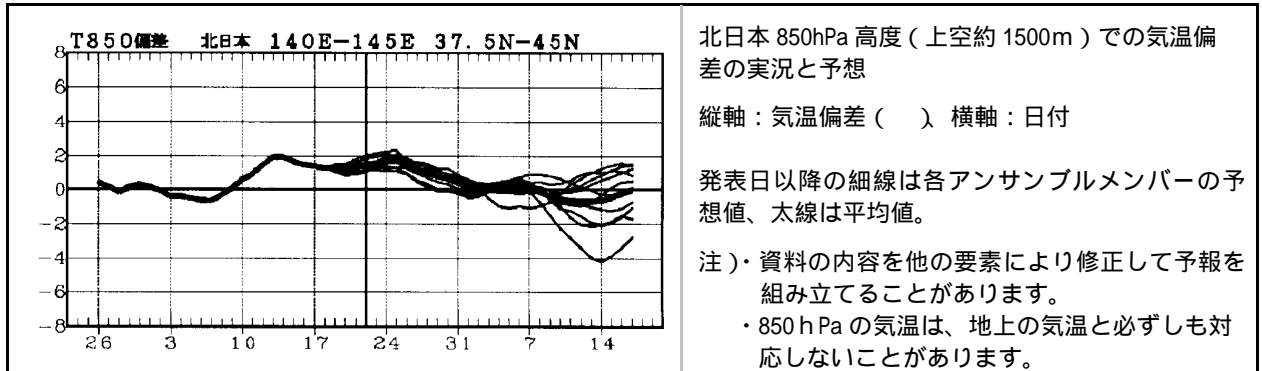
・ 地上気圧と降水量

月平均では、太平洋高気圧が東海上から日本付近に張り出している。1 週目（図略）には九州の南海上に熱帯低気圧に伴うまとまった降水域が見られる。2 週目以降（図略）は朝鮮半島付近に低気圧や前線に伴うまとまった降水域が見られ、北日本にはその一部がかかる。

太平洋高気圧の張り出しは、3～4 週目でやや後退するが、期間を通して勢力は強い。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

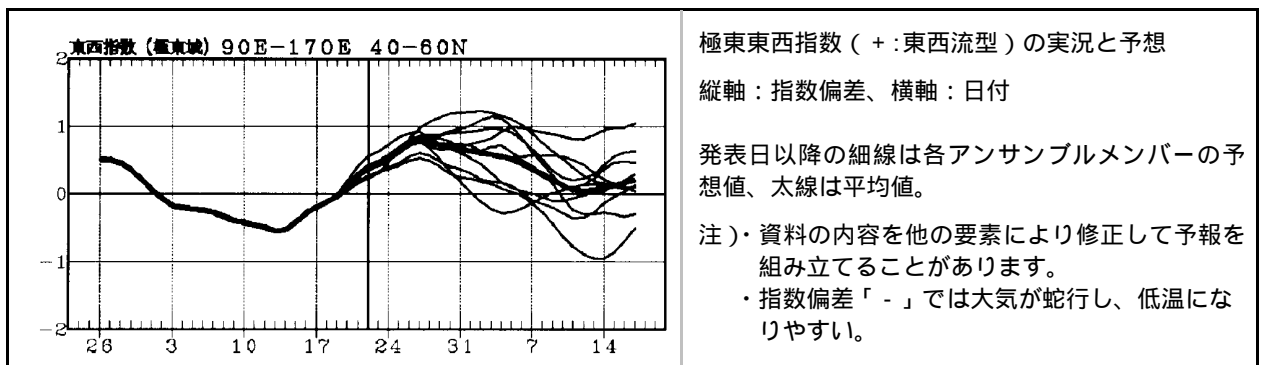
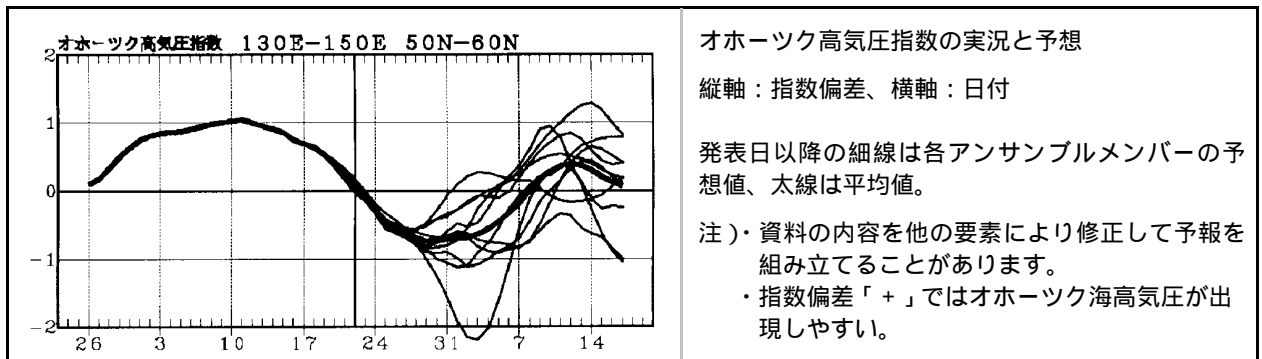
北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると期間を通してほぼ平年並が予想される。3～4 週目以降はバラツキが大きく、信頼度は小さい。



注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. その他

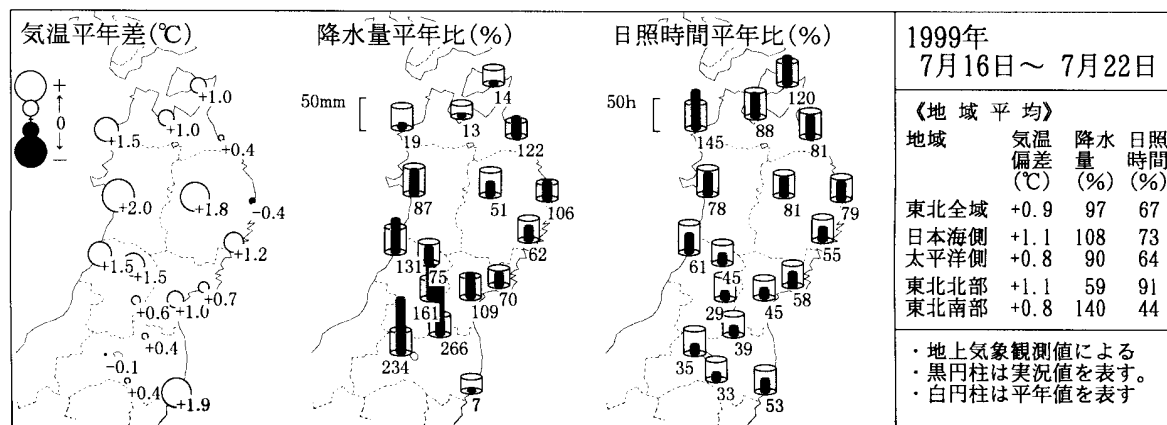
オホーツク高気圧指数は現在平年並の状態。今後は、アンサンブルメンバーの平均でみると平年より低くなり、3～4 週目に平年を上回ることが予想される。また、東西指数は、アンサンブル平均すると概ね正偏差が予想される。この時期の著しい低温はオホーツク海高度が高く、東西指数が負偏差の場合に多く発生するが、予想図からはこの期間著しい低温になる可能性は小さい。



5 . 最近 1 週間 (7 月 16 日 ~ 7 月 22 日) の天候の経過

期間の初めは日本海に停滞した低気圧の影響で、東北全般に天気が崩れた。その後は梅雨前線が東北地方南部に停滞し、日本の南海上を北上する台風第 4 号から変わった熱帯低気圧から暖湿な南風が入り、前線活動が活発化し、南部を中心に雨の日が多かった。

平均気温は、平年差の東北全域平均で+0.9 と平年を上回った。降水量は梅雨前線の影響を受けた南部では 140%と平年を上回り、日照時間は 44%と平年を下回った。北部では降水量は 59%と平年を下回り、日照時間は 91%とほぼ平年並であった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

6 . 参考資料

梅雨入り・明けの時期

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6 月 7 日頃	6 月 12 日頃	6 月 3 日頃	7 月 23 日頃	特定しない
東河北部	6 月 7 日頃	6 月 14 日頃	6 月 3 日頃	7 月 26 日頃	特定しない